

学生のアクティビティ

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。お茶の水女子大学内でも、生協に募金箱が置かれたり、原子力や原発に関する講演会が開かれたりするなど、震災支援や理解に対する活発な動きが見られます。そこで今回は、「がん茶」と「お茶の水女子大学学生自治会」という、学生が主体となって被災地のために動いている二つの団体を紹介します。

「お茶大生だからできること」 — がん茶

「がんばれ、東日本!がんばれ、お茶大!」

通称「がん茶」の活動理念は、「お茶大生だからできること」を行っていくことです。

「がん茶」発足のきっかけは、代表の末森咲さん(文教育学部言語文化学科3年生)による、募金活動の企画でした。同じく末森さんが代表を務める学生企画プロジェクトD-cha(大学公認の学生組織として、大学の支援を受けています)の活動の一環として、募金活動を企画したことでした。そこで、企画を重ねていくうちに、「募金などのどこでも出来ることだけではなく、大学という、学生や研究者の集ま

る場を活かして何かできないか?」と考えるようになりました。そうして設立されたのが、「お茶大生だからできること」を考え、行動する「がん茶」です。お茶大内の各学科のメー

リングリストで賛同者を募集し、集まったメンバーは37人。学部も学科も違う、学部2・3・4年生からなる団体になっています。



最上先生にインタビュー

がん茶の最大の特徴は、メンバーの持つつながりの多様性です。そして、そのつながりを最大限に活用したイベントが提案・企画されています。例えば、D-chaが助言を受けているリーダーシップ養成教育研究センターの紹介によりハンドマッサージの講習が行われ、避難所等での活動が予定されています。さらには、原子力に関する講演を企画・開催された最上善広先生(理学部長)にお話を伺うなど、がん茶ならではのアプローチ方法や、学問分野との連携などについての摺りあわせを進めています。



がん茶の会議風景

がん茶 連絡先

がん茶の情報はこちらで発信しています!メンバーもまだまだ募集中。

メール : gancha.2011@gmail.com

Twitter : http://twitter.com/#!/Dcha_11

facebook : <http://www.facebook.com/pages/D-cha/208775969141744>

「今すぐに活動出来るのは私たちだけ」 — 学生自治会

お茶の水女子大学学生自治会は、高校で言えば生徒会にあたる、学生の自治組織団体です。お茶大生が充実したより良い学生生活を送ることができるように、考え実行していくことを目的として活動しています。今回は、お茶大自治会の前代表、千種杏奈さん（文教育学部芸術・行動表現学科3年生）に、4月6日および4月13日から4月20日にかけて行われた募金活動についてお話を伺いました。



4月6日に行われた募金活動の様子

何人の方が参加されたのですか？

—自治会執行部6人と有志16人の、計22人が交代で活動していました。

震災は3月11日ですが、4月6日にはすでに募金活動を始めていますね。震災後すぐに活動を始めようと思いはなったのですか？

—私は今回の震災を受けて、今すぐに大学で活動できる団体は自治会しかないと思い、行動を起こしました。私たちは東京にいただけで、東北の被害を直接目の当たりにしたわけではありません。しかし、テレビの報道を見ていて、相当苦しい思いをされている状況でありながら東北の方々が頑張っているのに、私たちがなにもしないわけにはいかないと思いました。

ボランティアに行きたいと思っても何の知識もないので、私たちに今できることは、歯がゆいながらも募金活動しかないと思い、活動を行いました。

募金活動をしてどのような感想をお持ちになりましたか？

—自治会以外にも有志が手伝ってくださり、募金をしてくださった方も沢山いらっやっして活動は成功し、お茶大からたくさんの方々の気持ちを集められました。

この募金が、被災者の方々が笑顔になれるように、少しでも助けになれば、と思っています。

これをきっかけとして、お茶大生が募金以外にもいろいろな支援活動を行おうと考えてくださったなら幸いです。自治会では、D-chaと協力してさらなる支援活動を行っていきたく考えていますので、是非皆さんのご参加をお願いいたします。

被災者の方に、お伝えしたいことがありましたらお願いします。

—大変なことが、私たちには想像もできないほどたくさんあるかと存じますが、ここ東京にも、少しでも皆様の助けになりたいと願う人が大勢います。そのことを思い出していただけたら、という思いでいっぱいです。